



# Sun SPARC Enterprise™ M3000 サーバ プロダクトノート

---

XCP 1081 版

Sun Microsystems, Inc.  
www.sun.com

Part No. 820-7470-10  
2009 年 6 月, Revision A

Submit comments about this document at: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。



# 目次

---

プロダクトノート	1
<b>XCP 1081 に関する一般的な情報</b>	<b>3</b>
XCP 1081 の新機能	3
消費電力監視機能	4
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	5
Solaris パッチ情報	5
Solaris 10 10/08 のパッチ	6
Solaris 10 5/08 のパッチ	6
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	6
Solaris パッチの入手方法	7
Update Manager GUI を使用したパッチの入手	7
smpatch CLI を使用したパッチの入手	9
XCP 1081 へのアップグレード	10
XSCF ファームウェアのリセット	10
OpenBoot PROM ファームウェアのアップデート	11
機能の問題と制限事項	11
消費電力監視機能に関する制限事項	11
一般的な機能の問題と制限事項	11
追加情報および手順	12

システムへのログイン	12
XSCF Web ブラウザの問題	13
WAN ブートサーバからのブート	13
Sun Java Enterprise System	13
システムメモリの識別	14
▼ システム内の縮退メモリの識別	14

## **ハードウェアに関する情報 15**

200V 電源装置を使用する場合の注意事項	15
ハードウェアドキュメントの変更予定	16
電源コードとコネクタ形状	17
『SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』の変更予定	18
XSCF コマンドを使用した電源切断	18
DIMM 情報の説明	19

## **ソフトウェアに関する情報 21**

XCP に関する問題と回避方法	21
Solaris OS に関する問題と回避方法	23
サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題	23
Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題	27
ドキュメントの変更予定	29

# はじめに

---

このプロダクトノートでは、ドキュメントの出版後に判明した、Sun SPARC Enterprise™ M3000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報を説明します。

---

## 技術サポート

SPARC Enterprise M3000 のドキュメントで解決できない質問や問題がありましたら、ご使用地域の当社技術員にお問い合わせください。

米国またはカナダのお客様は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) までご連絡ください。その他の地域のお客様は、次のウェブサイトアクセスして最寄の World Wide Solution Center をお探してください。

<http://www.sun.com/service/contacting/solution.html/>

---

## ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M3000 には、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

## 追加情報

追加情報については、Solaris ドキュメントに付属のリリースノート、および最新の『*Solaris 10 Sun Hardware Platform Guide*』を参照してください。また、このマニュアルに追加の補足がないかどうか、ドキュメントウェブページを確認してください。最新情報は、次のウェブサイトに掲示されます。

<http://www.sun.com/documentation/>

---

## マニュアルへのアクセス

本体装置の設置、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M3000 のマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

<http://www.sun.com/documentation/>

---

**注** – このプロダクトノートで説明する情報は、SPARC Enterprise M3000 のマニュアルセットの情報よりも優先されます。

---

---

## ご意見をお寄せください。

Sun では、マニュアルの品質向上のために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのコメントを送信するには、次のウェブサイトのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

コメントの送信にあたっては、次のマニュアルのタイトルと Part No. を入力してください。

『*Sun SPARC Enterprise M3000 サーバ プロダクトノート XCP 1081 版*』、Part No. 820-7470-10

# プロダクトノート

---

このプロダクトノートには、Sun SPARC Enterprise™ M3000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。

---

## ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M3000サーバには、Solaris™ Operating Systemがプレインストールされています。

### 最新のSolarisパッチ

SPARC Enterprise M3000サーバの必須Solarisパッチは、システムにプレインストールされています。使用しているSolaris OSのバージョンに必要なパッチの一覧については、「[Solarisパッチ情報](#)」(P.5)を参照してください。

### 追加情報

追加情報については、使用しているSolaris OSのバージョンに対応するリリースノートと、次のURLのBig Adminウェブサイトを参照してください。

<http://www.bigadmin.com>



# XCP 1081 に関する一般的な情報

---

ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP 1081 の新機能」 (P.3)
- 「サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン」 (P.5)
- 「Solaris パッチ情報」 (P.5)
- 「Solaris パッチの入手方法」 (P.7)
- 「XCP 1081 へのアップグレード」 (P.10)
- 「機能の問題と制限事項」 (P.11)
- 「追加情報および手順」 (P.12)

---

## XCP 1081 の新機能

- 次に示す XSCF コマンドがアップデートされています。
  - `dumpconfig(8)`
  - `setsmt(8)`
  - `setsnmp(8)`
  - `showhardconf(8)`詳細については、各コマンドの `man page` を参照してください。
- 次に示す新しい XSCF コマンドがサポートされています。
  - `setloginlockout(8)`
  - `showloginlockout(8)`詳細については、各コマンドの `man page` を参照してください。
- 2 コア SPARC64 VII CPU のサポートが追加されています。
- 消費電力監視機能が追加されています。

## 消費電力監視機能

XCP 1081 を使用した SPARC Enterprise M3000 サーバに、消費電力監視機能が追加されています。

消費電力の監視により、SPARC Enterprise M3000 サーバの動作中、定期的に電力消費量を測定できます。測定された消費電力データは、設置場所の電流状態を把握したり、設置場所の電力設備を再設計したりする際に使用できます。

消費電力を表示するには、`showenvironment power XSCF` コマンドを使用します。SNMP エージェント機能を使用して消費電力データを取得することもできます。

---

**注** – SNMP エージェント機能を使用して消費電力データを取得するには、最新の XSCF 拡張 MIB 定義ファイルを SNMP マネージャにインストールします。XSCF 拡張 MIB 定義ファイルについては、『*SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』を参照してください。

---

`showenvironment(8)` コマンドの詳細については、`man page` を参照してください。SPARC Enterprise M3000 サーバの設置については、『*SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画マニュアル*』を参照してください。

---

**注** – コンピュータールームまたはオフィスの電力設備を最適化するには、SPARC Enterprise M3000 サーバの消費電力を一定期間にわたって測定する必要があります。コンピュータールームまたはオフィスでの設置を計画する場合は、当社技術員までご連絡ください。

---

# サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

表 1 に、本リリースでサポートされているファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) のバージョンを示します。

表 1 M3000 サーバに使用するファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョン

ファームウェアおよびオペレーティングシステム	バージョン
XSCF Control Package (XCP)	XCP 1081
Solaris オペレーティングシステム	Solaris 10 10/08 Solaris 10 10/06 (必須パッチ適用済み)*

\* パッチについては、「Solaris パッチ情報」(P.5) を参照してください。  
最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、表 2 のとおりです。

表 2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Firefox	2.0 および 3.0
Microsoft® Internet Explorer	6.0 および 7.0

## Solaris パッチ情報

この項では、M3000 サーバの必須パッチを示します。

パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。

この項に示すパッチ ID は、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。

最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

パッチは、記載されている順序で適用します。その他の Solaris OS の情報については、「[Solaris OS に関する問題と回避方法](#)」(P.23) を参照してください。

## Solaris 10 10/08 のパッチ

Solaris 10 10/08 OS 以降を実行する本体装置の場合、パッチは不要です。

## Solaris 10 5/08 のパッチ

Solaris 10 5/08 を実行する M3000 サーバすべてに、次のパッチが必要です。これらのパッチは、記載されている順序でインストールする必要があります。

1. 119254-59 (patchadd パッチ) - 次に進む前にシステムをリブートしてください。
2. 138866-01 - 次に進む前にシングルユーザーモードにリブートしてください。
3. 137137-09 (KU パッチ) - 次に進む前にシステムをリブートしてください。
4. 138504-04 SunVTS7.0PS3

Solaris 10 5/08 OS は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

## Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-27 以降で提供されるドライバが必要です。

- XSEFC402AF Sun StorageTek™ Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCIe HBA
- XSEFC401AF Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fiber Channel PCIeHBA

---

# Solaris パッチの入手方法

Sun<sup>sm</sup> Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『*Sun Update Connection System Administration Guide*』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

システムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- 「Update Manager GUI を使用したパッチの入手」 (P.7)
- 「smpatch CLI を使用したパッチの入手」 (P.9)

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれていません。

## Update Manager GUI を使用したパッチの入手

### 1. root として、次のいずれかの方法で Update Manager を起動します。

- [JDS Launch] メニューで  
[Launch]->[Applications]->[System Tools]->[Update Manager] の順にクリックします。
- 端末ウィンドウで  
/usr/bin/updatesmanager と入力します。

### 2. 登録を完了します。

- すでに登録している場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
- まだ登録していない場合は、Update Manager のインターフェースを使用して登録手続きに進みます。画面の指示に従います。

---

**注** – Sun Connection Update Manager GUI を使用して登録を完了できない場合は、コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してパッチを入手してください。[「smpatch CLI を使用したパッチの入手」 \(P.9\)](#) を参照してください。

---

3. Update Manager の [Available] タブで、[Update Collection] ドロップダウンメニューを開き、[Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 Servers] を選択します。

Update Manager は、必要なパッチがあるかどうか、システムを分析します。

4. カーネルパッチが推奨される場合、パッチ ID の左側にあるボックスをクリックしてこのパッチを選択し、[Install] ボタンをクリックします。

パッチは /var/sadm/spool にダウンロードされます。

---

**注** – カーネルパッチ（パッチ 118833-xx など）のインストールには、特別な手順が必要です（詳細についてはパッチの README を参照してください）。多くの場合、カーネルパッチはダウンロードのみの（対話型）パッチで、手動でのインストールが必要です。パッチセットにあるその他のパッチをインストールするには、カーネルパッチを先にインストールする必要があります。

---

5. カーネルパッチの場合は、続けて次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

6. 次のファイルに示されているインストール手順を実行します。

/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx

7. *patchid-xx* をインストールした後、`shutdown` コマンドを使用してシステムを再起動します。

`reboot` コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。Update Manager または `shutdown` コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

8. 再び Update Manager を起動して、[ステップ 3](#) と同様にコレクションを選択します。
9. Update Manager で新しい分析が自動的に開始されない場合は、[Check for Updates] ボタンをクリックします。
10. パッチの一覧で、パッチ ID の左側にあるボックスをオンにしてパッチを選択します。
11. [Install] ボタンをクリックします。

Update Manager は、パッチをダウンロードしてインストールします。

12. パッチのいずれかでシステムの再起動を求められた場合は、[ステップ 7](#)の手順に従います。

再起動を必要とするパッチをインストールした場合、Update Manager によってシステムを再起動できます。または、[ステップ 7](#)の説明どおり、shutdown コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールは完了しました。

## smpatch CLI を使用したパッチの入手

1. ファイル `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` を `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. ユーザー名とパスワード、および必要に応じてネットワークプロキシとポートを追加するように、ファイル `/tmp/RegistrationProfile.properties` を編集します。

---

**注** – ユーザー名およびパスワードは、Sun オンラインアカウントです。アカウントを作成するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

---

3. システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 適切なパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=sem3k4k5k8k9k
```

5. カーネルパッチがあれば、インストールします。

カーネルパッチ (`118833-xx` など) は、Sun Connection Update Manager でダウンロードできます。

- a. パッチを `/var/sadm/spool` ディレクトリにダウンロードします。

```
# smpatch update -i patchid-xx
```

- b. パッチを解凍します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip patchid-xx.jar
```

c. ファイル `/var/sadm/spool/patchid-xx/README.patchid-xx` に示されているインストール手順に従って、パッチをインストールします。

#### 6. システムを再起動します。

`reboot` コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。Update Manager または `shutdown` コマンドを使用する必要があります。

```
# shutdown -i6
```

#### 7. パッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

#### 8. パッチをダウンロードしてインストールします。

```
# smpatch update
```

#### 9. パッチのいずれかでシステムの再起動が求められた場合は、ステップ 6 を参照してください。

再起動を必要とするパッチをインストールした場合、Update Manager によってシステムを再起動できます。または、ステップ 6 の説明どおり、`shutdown` コマンドを使用できます。再起動を必要とするパッチの場合、インストールを有効にするために再起動が必要です。

これでパッチのインストールは完了しました。

---

## XCP 1081 へのアップグレード

XCP 1080 を XCP 1081 にアップグレードできます。手順については、『*Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド*』を参照してください。

## XSCF ファームウェアのリセット

XCP ファームウェアを 1081 以降にアップデートした後、`rebootxscf(8)` コマンドを使用して XSCF をリセットします。

# OpenBoot PROM ファームウェアのアップデート

ターゲットドメインの OpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアのアップデートを完了するには、ドメインを必ず再起動してください。ドメインは、アップデート完了後、できるだけ早く再起動する必要があります。

---

## 機能の問題と制限事項

ここでは、本リリース時点でわかっている問題および制限事項について説明します。

### 消費電力監視機能に関する制限事項

以下の状況では、`showenvironment` コマンドの出力および XSCF Web に MIB 情報の電力消費量が正しく表示されないことがあります。その場合は、1 分間待ってからもう一度値を確認します。

- 本体装置の電源投入中または電源切断中、あるいは電源投入または電源切断の完了後しばらくの間
- 電源ユニットの活性交換中、あるいは活性交換の完了後しばらくの間

### 一般的な機能の問題と制限事項

---

**注** - 分電盤のメインラインスイッチまたはサーキットブレーカーによってシステムの電源を再投入する場合、電源を切断した後に少なくとも 30 秒待ってから、電源を投入してください。

---

- 次の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。root、bin、daemon、adm、operator、nobody、sshd、rpc、rpcuser、ldap、apache、ntp、admin、および default。
- Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun Blueprint のマニュアル『*Using NTP to Control and Synchronize System Clocks*』(<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>) を参照してください。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
  - OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (\*CPUN/RTNU)

- 本体装置ハードウェア異常信号（電源異常、温度異常、ファン異常）（\*ALARM）
- XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に **Web session ID error** が表示されることがあります。また、**Autologout** 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、**Internal Server Error** が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
- XSCF Web を使用するときは、ポップアップブロック設定を無効にし、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合はプラグインを削除してください。
- XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。

---

## 追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

### システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、M3000 サーバでは、**admin** と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したリモート初期ログインが可能になります。本体装置の権限は **useradm** 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名 / パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 **admin** としてログインすることはできません。一時 **admin** アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 **admin** としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 **admin** アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時 **admin** としてログインできない場合には、**showuser -1** コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

## XSCF Web ブラウザの問題

XSCF Web ブラウザインターフェースでは、出力が切り捨てられる場合があります。たとえば、snapshot 画面で SSH を選択したとき、Host、Directory、ID、Password の入力可能文字数が XSCF シェルでの入力可能文字数と一致しません。[Panic Log] ページで、パニックメッセージが最後の 50 行分しか表示されません (CR 6756052)。ブラウザインターフェースで、監査以外のログサイズ制限が最後の 2 桁しか表示されません (CR 6742502)。

出力全体を表示するには、XSCF Shell コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。

## WAN ブートサーバからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバから M3000 サーバをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル wanboot をインストールし、OpenBoot™ バージョン 4.24 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

## Sun Java Enterprise System

Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアは、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。ソフトウェアおよびインストール手順は、次のウェブアドレスにあります。

<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.jsp>

ソフトウェアには、ご使用の本体装置に必須のパッチが含まれていない場合があります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、「Solaris パッチ情報」(P.5) を参照してください。

概要およびドキュメントについては、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

---

**注** – Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題 (CR 6644798) に対処するために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

---

### ▼ Web Console SMF サービスの有効化

- 端末に `root` としてログインし、次のように入力します。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

## システムメモリの識別

### ▼ システム内の縮退メモリの識別

- XSCF にログインし、システムステータスを表示します。

```
XSCF> showstatus
```

次に、マザーボードユニット上の DIMM 番号 0A のメモリが縮退した例を示します。

```
XSCF> showstatus
      MBU_A Status:Normal;
*     MEM#0A Status:Degraded;
```

# ハードウェアに関する情報

---

ここでは、SPARC Enterprise M3000 サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- [200V 電源装置を使用する場合の注意事項](#)
- [ハードウェアドキュメントの変更予定](#)

---

## 200V 電源装置を使用する場合の注意事項

B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー (NFB) やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

# ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明したハードウェアに関する最新情報および変更予定を示します。

表 3 に、ドキュメントの変更予定を示します。

表 3 ハードウェアドキュメントの変更予定

タイトル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画 マニュアル	2-5	「表 2.4 電源コードとコネクタ形状」 香港の電源コードタイプについて、「IEC 60320 C14」と記載されていますが、正しくは「BS1363」です。 以下の注釈を追加します。 <b>注 - B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。</b>
SPARC Enterprise M3000 サーバインストールレーションガイド	2-5	「表 2.4 電源コードとコネクタ形状」 香港の電源コードタイプについて、「IEC 60320 C14」と記載されていますが、正しくは「BS1363」です。 以下の注釈を追加します。 <b>注 - B 型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に 15A の過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15A の過電流保護を行ってください。B 型プラグとは、平行 2 極接地極付プラグ以外の NEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。</b>

## 電源コードとコネクタ形状

次の情報は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画マニュアル』および『SPARC Enterprise M3000 サーバインストールガイド』の情報よりも優先されます。

電源コードとコネクタ形状に関する訂正済みの表は、次のとおりです。

表 2-4 電源コードとコネクタ形状

地域	電源コードのタイプ	コネクタ形状
日本	NEMA5-15 125V15A	IEC 60320 C13
北米	NEMAL6-15 250V15A	
中国	GB 2099.1 250V15A	
香港	BS1363 250V15A	
韓国	IEC60320-C14 250V15A	

**注** - B型プラグを持つ本体装置では、本体装置外に15Aの過電流保護装置があることを確認してください。この装置がない場合は、ノーヒューズブレーカー（NFB）やヒューズなどを使用して、15Aの過電流保護を行ってください。B型プラグとは、平行2極接地極付プラグ以外のNEMA L6-30、L6-20、L6-15、L5-15などを指します。

# 『SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』の変更予定

次の情報は、『SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』の情報よりも優先されます。

## XSCF コマンドを使用した電源切断

ここでは、「4.5.1.1 XSCF コマンドを使用した電源切断」を変更します。

1. 本体装置の電源を切断することをユーザーに通知します。
2. 必要に応じて、システムファイルとデータをバックアップします。
3. XSCF シェルにログインし、`poweroff` コマンドを入力します。

```
XSCF> poweroff -a
```

`poweroff` コマンドを使用すると、次の処理が実行されます。

- Solaris OS が完全にシャットダウンします。
- 本体装置の電源が切断されて、本体装置がスタンバイモードになります（XSCF ユニットと1つのファンは電源が投入されたままになります）。

詳細については、使用している本体装置の『XSCF リファレンスマニュアル』を参照してください。



---

**注意** – 電源コードを抜かないと電氣的故障が発生する可能性があります。本体装置の電源を完全に切断するには、すべての電源コードを抜く必要があります。

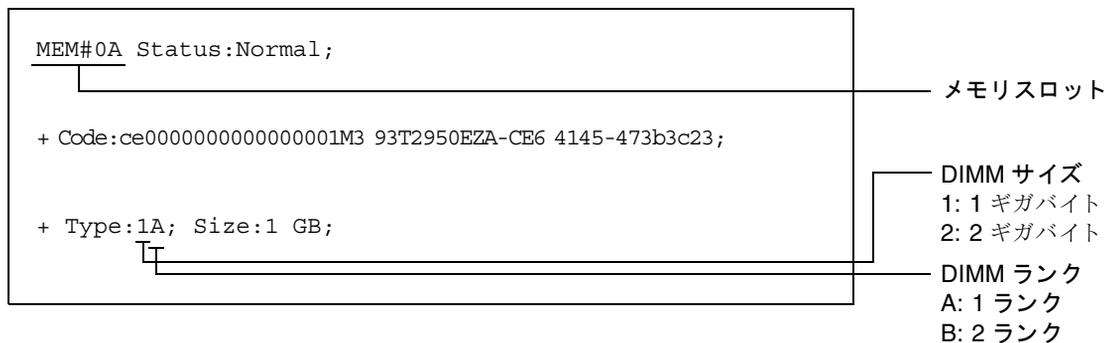
---

## DIMM 情報の説明

B.1 DIMM 情報の確認、図 B-1 DIMM 情報の説明。

図 B-1 に、DIMM 情報の例を示します。

図 B-1 DIMM 情報の例





# ソフトウェアに関する情報

---

ここでは、次の内容について説明します。

- 「XCP に関する問題と回避方法」 (P.21)
- 「Solaris OS に関する問題と回避方法」 (P.23)
- 「ドキュメントの変更予定」 (P.29)

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

---

## XCP に関する問題と回避方法

表 1 に、XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 1 XCP の問題と回避方法 ( 1 / 2 )

ID	説明	回避方法
6723305	XSCF Web で、サマータイムが正しく表示されません。	回避方法はありません。showlogs(8) コマンドを使用して、サマータイムの時刻を確認してください。
6741770	SNMP トラップホストの設定を変更しても、setsnmp disable と setsnmp enable を実行するまで反映されません。	次のように SNMP の設定を変更します。 XSCF> <b>setsnmp disable</b> XSCF> <b>setsnmp enable</b>

表 1 XCP の問題と回避方法 ( 2 / 2 )

ID	説明	回避方法
675614	XSCF Web のネットワーク設定では、 <code>setnetwork -r</code> オプションに相当する機能がサポートされていません。また、ホスト名やドメイン名に <code>localhost</code> や <code>localdomain</code> を指定すると、「SessionID has expired」というエラーメッセージが出力されます。	XSCF シェルで <code>setnetwork -r</code> コマンドを実行してください。
6761674	OBP コマンドの <code>probe-scsi-all</code> を最初に実行するときは、外部 SAS ポート経由で接続されたすべてのデバイスが表示されないことがあります。	probe-scsi-all コマンドを再実行してください。
6765468	タイムゾーンの値が 3 文字ではない場合、エラーログが XSCF Web の [Error Log] ページに表示できません。また、XSCF Web の [Panic Log] ページおよび [IPL Message Log] ページで、表の日付が「---」と表示されます。	XSCF シェルで <code>showlogs(8)</code> コマンドを使用してください。
6767612	PCI スロットエラーが検出されたときに、モニタメッセージログが登録されないことがあります。	回避方法はありません。 <code>showlogs error</code> コマンドまたは <code>fmdump</code> コマンドを使用して、PCI スロットの障害情報を確認してください。
6789066	In the <code>settimezone -c adddst</code> コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前に 8 文字以上を設定した場合、 <code>showlogs</code> コマンドを実行すると、セグメンテーションの障害が発生し、エラーになります。	タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7 文字以下で指定してください。

# Solaris OS に関する問題と回避方法

この項では、Solaris OS に関する問題について説明します。表 2 に、使用している Solaris OS リリースに応じて発生しうる問題を示します。表 3 に、Solaris 10 10/08 で修正された問題を示します（これらの問題は、Solaris 10 5/08 を実行しているシステムではまだ発生する可能性があります）。

## サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題

サポートされているリリースの Solaris OS で発生しうる問題を、表 2 に示します。

表 2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 ( 1 / 4 )

CR ID	説明	回避方法
6440061	ドメインのコンソールに次のメッセージが表示されることがあります。 ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。このメッセージは無視しても差し支えありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscop サービスの起動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 # svccfg -s dscop setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscop # svcadm refresh volfs
6572827	prtdiag -v コマンドで PCI バスのタイプが間違っって出力されます。PCI-X リーフデバイスが「PCI」、レガシー PCI デバイスが「UNKN」と表示されます。	回避方法はありません。
6623226	lockstat(1M) または dtrace lockstat プロバイダで、システムパニックが発生することがあります。	これはパッチ 140336-01 で修正済みです。 [ 回避方法 ] Solaris の lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat プロバイダを使用しないでください。

表 2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 ( 2 / 4 )

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: &lt;hostname&gt; SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1- cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled.Refer to http://sun.com/msg/FMD-8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled.Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u &lt;EVENT- ID&gt;</code> to locate the module.Use <code>fmadm reset &lt;module&gt;</code> to reset the module</pre>	<p><code>fmd</code> サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># <b>svcadm clear fmd</b></pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># <b>fmadm restart cpumem-diagnosis</b></pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p>以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># <b>fmadm repair <i>fmri</i> <i>uuid</i></b></pre> <pre># <b>fmadm rotate</b></pre>

表 2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 ( 3 / 4 )

CR ID	説明	回避方法
6679370	<p>システムのブート中、ホットプラグによる PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical</p> <p>...</p> <p>DESC:</p> <p>A problem was detected in the PCIExpress subsystem.</p> <p>Refer to <a href="http://sun.com/msg/SUN4-8000-75">http://sun.com/msg/SUN4-8000-75</a> for more information.</p> <p>...</p>	<p>/etc/system に次の行を追加し、ドメインをリブートしてください。</p> <pre>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</pre>
6680733	<p>Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NICs に高負荷がかかっていると、パニックを起こす場合があります。</p>	<p>これはパッチ 139570-01 で修正済みです。</p>
6689757	<p>単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。</p> <p>The XFP optical transceiver is broken or missing.</p>	<p>これはパッチ 139570-01 で修正済みです。</p> <p>両方の XFP 光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。</p> <p>INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。</p> <p>ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。</p>
6723202	<p>M3000 サーバのオンボード SAS/LSI コントローラを使用してハードウェア RAID を構築するために、raidctl コマンドを使用することはできません。</p> <p>raidctl コマンドは、ディスクやコントローラの状態を確認するために使用したり、システムにインストールされている PCI ホストバスアダプター (HBA) で使用したりすることができます。</p>	<p>回避方法はありませぬ。この問題は解決する予定はありません。</p>
6725885	<p>cfgadm を使用すると、存在しない M3000 システムボード (SB1 から SB15) が表示されま</p>	<p>cfgadm の出力にある SB1 から SB15 は無視してください。</p>

表 2 サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題と回避方法 ( 4 / 4 )

CR ID	説明	回避方法
6737039	<p>M3000 サーバの WAN ブートが、ブートプロセスの初期段階でのパニックにより断続的に失敗します。出力例：</p> <pre> ERROR: Last Trap: Fast Data Access MMU Miss %TL:1 %TT:68 %TPC:13aacc %TnPC:13aad0 %TSTATE:1605 %PSTATE:16 ( IE:1 PRIV:1 PEF:1 ) DSFSR:4280804b ( FV:1 OW:1 PR:1 E:1 TM:1 ASI:80 NC:1 BERR:1 ) DSFAR:fda6f000 DSFPAR:401020827000 D- TAG:6365206f66206000 </pre>	<p>シャーシの電源を切断して投入し、操作を再実行してください。</p>
6745410	<p>システムをブートしないようにする Kadb オプションが、ブートプログラムで無視されます。</p>	<p>kadb の代わりに kmdb を使用してください。</p>
6765239	<p>複数の SAS ターゲットにつながる SAS デバイスが、オンボートの外部 SAS インターフェースに接続されている場合、正常に動作しません。デバイス内のターゲット ID のリストは、リブート後に変更されることがあります。</p>	<p>複数の SAS ターゲットにつながるデバイスをオンボートの外部 SAS インターフェースに接続しないでください。Sun StorageTek Host Bus Adaptor (SG-XPCIE8SAS-E-Z) を使用してください。または、このバグに対するパッチが入手可能かどうかを確認してください。</p>

## Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題

表 3 に、Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。Solaris 10 5/08 を使用すると、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 ( 1 / 2 )

CR ID	説明	回避方法
6533686	XSCF でシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動する DR deleteboard または moveboard 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout この問題が発生するのは、マルチドメインのホストである Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。	これはパッチ 138397-01 で修正済みです。 後で、DR 操作を再実行してください。
6556742	DR 時に DiskSuite が metadb を読めない場合、システムがパニックします。このバグの影響を受けるカードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• SG-XPCIE2FC-QF4, 4-Gigabit PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA</li><li>• SG-XPCIE1FC-QF4, 4-Gigabit PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA</li><li>• SG-XPCI2FC-QF4, 4-Gigabit PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA</li><li>• SG-XPCI1FC-QF4, 4-Gigabit PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA</li></ul>	metadb の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。

表 3 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 ( 2 / 2 )

CR ID	説明	回避方法
6608404	X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードをホットプラグ操作で取り付けると、他のネットワークデバイスに障害が発生する場合があります。	回避方法はありません。
6614737	次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングすることがあります。 DIMM が縮退している。 ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。	Solaris 10 5/08 またはそれより前の場合、これはパッチ 137111-01 で修正済みです。  次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないようにしてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>縮退メモリシステムに縮退メモリが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showstatus を使用します。出力例については、「システムメモリの識別」(P.14) を参照してください。</li> <li>異なるメモリサイズドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showdevices またはドメインで prtdiag コマンドを使用してメモリサイズのリストを表示します。出力例については、「システムメモリの識別」(P.14) を参照してください。</li> </ul> DR コマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリブートしてください。
6720261	ドメインで Solaris 10 5/08 OS が稼働している場合、通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	これはパッチ 137137-09 で修正済みです。 [ 回避方法 ] 次のパラメータをシステムに設定します。 仕様ファイル (/etc/system) : set heaplp_use_stlb=0 その後、ドメインをリブートしてください。

## ドキュメントの変更予定

この項では、M3000 サーバのドキュメントの出版後に判明したソフトウェアに関する最新情報を示します。

『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』に関する変更内容はマニュアルのみに適用されます。XSCF man page が正確です。

表 4 に、ドキュメントの変更予定を示します。

表 4 ドキュメントの変更予定 ( 1 / 2 )

ドキュメント	変更対象	変更内容
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	2-34 ページ	「ロックアウト時間に 0 分を指定してロックアウト機能を無効にする場合、任意のユーザーアカウントで最初のログインに成功すると、ロックアウト機能は無効になります。無効設定後、最初のログインに失敗すると、ロックアウト機能は無効になりません。 ★ To disable the account lockout function you must set 0 minutes again. ★」という説明は、次のように変更されます。 「setloginlockout コマンドで、-s 0 を指定すると、ロックアウト機能を無効にできます。 ロックアウト機能を無効に設定した場合、ユーザーは何回でもログインを試みることができるようになります。ロックアウト時間が経過する前にロックアウトされたユーザーアカウントにアクセスする必要がある場合は、システム管理者にロックアウト機能を無効にしてもらい、ログインが許可された後、ロックアウト時間を設定してロックアウト機能を再度有効にしてください。」
SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	3-4 ページ	「ドメインコンソールは強制ログアウトしません。」という説明は、次のように変更されます。 「ドメインからログアウトしないで、ドメインコンソールから XSCF シェルコンソールに戻った場合は、自動的にドメインからログアウトされます。ドメインコンソールを放置した場合のセッションタイムアウト時間を設定する場合は、Solaris OS のマニュアルを参照してください。」
Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/ /M9000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル		新しいコマンドの setloginlockout(8) および showloginlockout(8) は、リファレンスマニュアルに記載されていません。 詳細については、man page を参照してください。

表 4 ドキュメントの変更予定 ( 2 / 2 )

ドキュメント	変更対象	変更内容
<i>Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル</i>	setssh(8) コマンド	次に示す新しいオプションは、マニュアルに記載されていません。 -m dscp=mode 詳細については、setssh の man page を参照してください。
<i>Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル</i>	showenvironment(8) コマンド	-power オプションは、マニュアルに記載されていません。 詳細については、showenvironment の man page を参照してください。
<i>Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル</i>	showssh(8) コマンド	SSH の現在の値を表示する方法の説明は、マニュアルに記載されていません。 詳細については、showssh の man page を参照してください。
<i>Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000 /M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル</i>	traceroute(8) コマンド	ユーザー権限内の以下の記述は削除されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DSCP アドレスに対して実行する場合 fieldeng</li> </ul> オペランド内の記述に、以下の内容が追加されます。 DSCP アドレスを指定した場合はエラーとなります。